

夏に流行する 小児の感染症

公立富岡総合病院小児科

小須田貴史

① プール熱

いわゆる「プール熱」とは「咽頭結膜熱」のことで、原因はアデノウイルスによる感染です。感染経路は飛沫（空気）感染の他に、気道・眼球結膜の分泌物により汚染されたタオルや衣類などで接触感染します。夏にプールなどで感染し流行することから、「プール熱」と呼ばれていました。最近は季節に関係なく、またプール以外での感染も多いため「咽頭結膜熱」と呼ぶ方が適切です。潜伏期間は2～14日で、症状は発熱、咽頭炎・結膜炎症状の他に、胃腸炎をきたすこともあります。また合併症として、まれに肺炎、髄膜炎、脳炎など重症化する例もあります。治療は対症療法（症状をやわらげる治療）のみで、経過は4～5日で改善傾向になります。予防はタオルの区

別や手洗いを徹底です。なお登園登校の禁止は、「主要症状が消退した後2日を経過するまで」となっています。

② 手足口病

数日の潜伏期の後に、発熱とともに手掌、足底、口腔内（まれに膝や大腿、臀部）に小さな固い水疱ができる病気です。原因はコクサッキーウイルスA16とエンテロウイルス71で、感染経路は飛沫あるいは接触感染です。口の中が痛いため食欲がなく、水分が取りにくくなりますが、

数日の経過で改善します。根本的な治療はなく、高熱に対して解熱剤を使用したり、水分摂取ができず脱水になった時には輸液を行います。まれに髄膜炎や脳炎を合併しますので、吐いてぐったりする時には医療機関の受診が必要です。登園登校は本人の状態により判断してかまいません。

疾患です。原因はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスにより、感染経路は飛沫あるいは接触感染です。おもに暑い季節に流行します。潜伏期間は2～4日間で、急に高熱が出て喉の痛みのため食事を取りにくくなりますが、経過は3～6日で、脱水に注意すれば経過は良好です。治療薬はなく対症療法のみです。登園登校は本人の状態により判断して可です。

④ 発熱時の対処

体温グラフをつけて、全身状態の観察をしましょう。湯冷まし、お茶、イオン飲料などの水分補給を行うと良いでしょう。また熱いところはアイスノンや冷却湿布で冷やしましょう。手足が冷たくなりガタガタして寒がる時（悪寒）は、着るものや布団を1枚多くするなどで保温しましょう。食事は消化の良いお粥やうどんなどを与えます。解熱剤は病気の原因を治す薬ではなく無理に熱を下げる必要はありませんが、食欲がなくてつらそうであれば使用してあげると良いでしょう。

③ ヘルパンギーナ

喉の奥が赤くなり、口蓋弓と呼ばれる場所に水疱ができる発熱性

子供の発熱時の対処

- ◆ 体温グラフをつけて、全身状態の観察
- ◆ 湯冷まし、お茶、イオン飲料などで水分補給
- ◆ 熱いところをアイスノンや冷却湿布で冷やす
- ◆ 寒がる時は、着るものや布団などで保温
- ◆ 食事は消化の良いものを
- ◆ 解熱剤は食欲なくつらそうな時に使用

